

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 日本厚生学園 おきのはた			
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～	令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	15名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間が、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備がバリアフリー化や情報伝達等への配慮を行っている。	・自分の棚やロッカー、椅子など個人のマークをつけてわかりやすくしている。また、各自に合わせて凹凸をつけ手で触れて自分の場所だとわかるように対応している。 ・入り口には移動式スロープを設置している。	・使用するマークを、事前に保護者や職員に周知しておく。
2	生活空間が清潔で、心地よく過ごせる環境となっている。また、子ども達の活動に合わせた空間を整えている。	・子供たちが活動する中で十分なスペースが確保されている。 ・遊ぶ時間、設定の時間など、そのときに合わせた空間づくりを行っている。 ・朝夕の消毒と、嘔吐したときにはふき取りだけではなく、消毒もきちんとしている。	・異食行動を防止するため、床等にゴミを見つけた場合、気づいた職員がすぐにゴミ箱に捨てる。
3	職員の質の向上を目指している。	・園内で勉強会やティーチャーズトレーニングを行ったり、外部の研修にも参加している。 ・毎年様々な研修の機会を設けている。 ・研修に参加し、報告・情報共有をしている。	・事例検討会に参加する機会を増やし、職員の質のさらなる向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会が不足している。	・開所したばかりで交流の機会がない。	・外部との交流を行った場合、保護者に活動内容を周知するとともに、障害のない子どもと活動する機会を設けることを検討する。
2	家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行う取り組みが不足している。	・開所したばかりで家族支援プログラムを開催する機会がない。	・来年度からペアレントトレーニングの参加者を募り、ご案内を出す予定を立てている。
3			